

藤沢久美

# そこが聞きたい

Kumi Fujisawa\_Soko ga kikitai

Vol.

## 08

### クリーンなエネルギーを作る 「自然エネルギー市民ファンド」とは



藤沢久美  
ソフィアバンク  
副代表

国内外の投信運用会社を経て日本初の投信評価会社を企業。'00年ソフィアバンク副代表。現在、社会企業家フォーラム副代表、法政大学専門職大学院客員教授も兼務。



鈴木 亨  
自然エネルギー  
市民ファンド  
代表取締役

'57年北海道生まれ。'99年NPO法人北海道グリーンファンド理事兼事務局長に就任。'01年市民風力発電、'03年自然エネルギー市民ファンドを設立。両社の代表取締役を兼務。



供給できます。

**藤沢** 安定して利益を出せるんですか。

**鈴木** 電力会社と長期の売電契約を結ぶので、電力の買い取りについては心配ありません。例えば、北海道の浜頓別町に風車を建てた1号ファンドの場合、北海道電力と17年間の売電契約を結んでいきます。あらかじめ、売り先と価格が決まっているわけです。

Jyoshiki08\_Kumi Fujisawa x Toru Suzuki

また、発電量にノルマや制限があるわけではなく、発電した分だけ買い取ってもらえる契約です。  
**藤沢** 風が吹くほどもうかるんですね。まさに風まかせだ。(笑)  
**鈴木** 実際は、利益が大きくぶれる可能性は低いです。ファンドの利回りにすると年2〜3%台のイメージで、ものすごくもうかる商品ではありませんよ。

#### 食べ物からエネルギーへ

**藤沢** どうして市民風車ファンドを作ろうと思ったんですか。

**鈴木** もともとは生まれ故郷の北海道で生協の職員をしていました。そこでは「食の安全、安心」をテーマに、無農薬野菜を共同購入する仕組みを作ったりしていました。そんな時、'86年にチエルノブイリで原発事故が起こって、8000キロ離れた日本で採れた、生協で扱っているお茶の葉からセシウムが検出される事件があったんです。それで、生協の会員さんたちと「食べ物を選ぶ仕組みはあるのに、エネルギーを選べないのはなぜだろう」という話になって……。

それがきっかけで、「消費者がエネルギーを選べる仕組みを作る」と考えるようになったんです。その後、独立して、NPO法人



千葉県旭市で運転中の市民風車「かざみ」。予測発生電力量は320万kWh/年で、一般家庭約1000世帯分の年間消費電力に相当。

を立ち上げました。おカネも知識もなかったんですが、生協の仕事を通じて築いた人のネットワークがあった。いろいろな人に助けられて、なんとか今のファンドの形になったんです。化石燃料や原発に頼らない仕組み作りとして、「自分たちでクリーンな電気を作ってしまう」ということですね。

**藤沢** 今までどれぐらいの市民風車を手がけられたのですか。

**鈴木** これまで北海道のほか、青森、秋田、千葉、茨城、石川と12基の市民風車ができています。ファンドには、延べ22億円のおカネが集まりました。

**藤沢** 今後どれぐらいのペースで増やしていくんですか。

**鈴木** 毎年1本はファンドを作りたいと思っていますが、電力

Twitterに届いた質問に答えます!

# 対談実況中継 on twitter



guestA

市民風車ファンドに出資するとどんな特典がありますか。



Toru Suzuki

分配金以外では、風車に名前が刻まれます。お子さんやお孫さんの名前にして、ご家族で記念写真を撮影されたりしています。



kumifujisawa

金銭的なリターンが目的ではない人が多そうですね。



Toru Suzuki

もともと、すぐもうかるファンドではありません。応援したい、自分も参加したいという方が多いです。



guestB

風力発電のエネルギー効率が大幅に上がる可能性はありますか。



Toru Suzuki

技術的な進歩はありますが、風の強弱の方がはるかに重要。やはり、強い風が安定して吹く立地が一番です。



kumifujisawa

「風力発電は日本に向かない」という声もありますけど、場所によりけりということですね。



Toru Suzuki

それと、今、日本で使われている風車はヨーロッパ製が多い。日本とヨーロッパでは風の性質が違うので、日本に合わせた風車も必要です。将来的には、自分たちで日本の地形に合わせた風車も設計したいです。

+ フォローする

<http://twitter.com/kumifujisawa>



藤沢久美の「そこが聞きたい」では、対談中に随時ツイッターで質問を受け付けています。面白い質問があれば、対談中にリアルタイムで回答することも。いつ、誰と対談があるかについても、ツイッターで告知するので、どんどんフォローしてください。



会社の買い取り枠があるので、こちらで決められない部分があります。買い取り枠に対して10倍以上の応募があるので、抽選になるんです。それで枠が当たったら風車が建てられると。

**藤沢** ツイッターでは風車の騒音に対する質問が多数きています。

**鈴木** 他の事業者が手がける一部の風車で、そうした問題が起きています。科学的には分からない部分もあるのですが、トラブルに悩んでいる風車は、民家との距離が近いのではないかと思います。

事業者からすると先ほどの抽選のリスクが大きいですので、事前の調査に十分なコストや時間をかけられない状況になっています。市

## Soko ga Kikitai

民風車にもそういうリスクはありますが、地域との関係を重視して開発を進めていくことを基本としていますので、今のところ問題は起きていません。

**藤沢** 今後、風力以外の発電に取り組む予定はありますか。

**鈴木** もともと、風力だけをやるつもりで始めたわけではないんです。当時は費用対効果で考えて、事業化できるのが風力しかなかったんですね。

ただ、改めて日本を見つめると、風の国というよりは水の国でしょう。だから水力発電とかに可能性があると思います。

**藤沢** ダムを作るような大きいのではなく、もっと小型の。

**鈴木** そうです。例えば、農業用水路を活用するとか。数十キロぐらいなら一つの用水路で十分取れるんです。ポテンシャルはすごく大きい。

それと、日本は温泉もいっぱいあるから、地熱発電もできる。温泉組合とコラボしたファンドもできるかもしれません。

**藤沢** いろんなファンドの可能性がありますね。

**鈴木** 日本には地域ごとに豊かな資源がたくさんあって、そこでしかできないものがあるんです。それを生かしていくことで環境にも貢献できるし、持続可能な地域社会も作れる。ファンドを通じて、少しずつ実現していきたいですね。